

言葉の務めと神のエコノミーのための神の分与

言の務めとは神の分与であり、
神の分与は神のエコノミーのためです

務め	1	言の務め	「祈りと言の務めを堅く持ち続ける」
	2	和解の務め	和解の務め
	3	命の務め	からだのために命を供給する
	4	戦いの務め	神の尺度の度量と、霊的戦いについての務め
エコノミー と 分与	5	忠信な執事となる	主と協力して彼の <b>エコノミー</b> を遂行し、彼の忠信な執事となって、主からの負担を持って言葉を供給し互いに一つ思いで組み合わせられる
	6	ヨハネの務めにおける三一の神の <b>分与</b>	
	7	わたしたちの中へと <b>分与</b> するという永遠の祝福	三一の神がご自身をわたしたちの中へと <b>分与</b> するという永遠の祝福は、わたしたちに享受させ、また神の <b>エコノミー</b> を完成するためである
8	三部分から成る人の中へと <b>分与</b> する	三一の神を命として三部分から成る人の中へと <b>分与</b> することは、彼の義にしたがっており、彼の聖を通してであり、彼の栄光へと至る	

## メッセージ 1

### 「祈りと言の務めを堅く持ち続ける」

聖書：使徒 6:4. ユダ 20 節. マルコ 11:20-24. エペソ 3:17-19

祈りを堅く持ち続ける 言の務めを堅く持ち続ける	使徒 6:4 ただしわたしたちは、 <b>祈りと言の務め</b> を堅く持ち続けることにしましょう」。
使徒と預言者に啓示される	エペソ 3:5 その奥義は、 <b>今や彼の聖なる使徒たちと預言者たちに、霊の中で啓示されていますが</b> 、別の世代では、そのように人の子たちに知らされていませんでした。
言の務めの例証	エペソ 3:17 またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。

祈りと言の務めを堅く持ち続ける			
I	祈りを堅く持ち続ける	A-C	祈りの認識(一般)
		D-E	権威の祈り(最高)
II	言の務めを堅く持ち続ける	A	言葉の務めの前にまず祈りがあるべきです
		B	言葉の務めの例証は、エペソ第 3 章 17 節前半です

(朝ごとの食物第1週) 祈りと言の務めを堅く持ち続ける			
日	段落流れ思想	主題	要点
1	祈りを堅く持ち続ける	祈りの意味と祈りの人を認識する	祈りの意味 祈りの人
2		真の祈り	聖霊の中で祈る 両当事者の祈り(二重の人物の祈り)
3		最高の祈りは権威の祈りです	マタイ 18:18 の権威の祈りを学ぶ 縛り、解く祈りを学ぶ
4		権威の祈りとはマルコ 11:23-24 の祈りです	信仰とは、わたしたちが求めたものをすでに受けたと信じることです 「この山」に向かって語ることを学ぶ
5		言の務めの例証	言葉の務めの前にまず祈りがあるべきです 言葉の務めの例証は、エペソ第 3 章 17 節前半です
6		言の務めを堅く持ち続ける	キリストがホームを造るとき、わたしたちは満たされて、キリストのために語ります

結びの言葉	
祈りの人となり、神のために語る人となる	
祈りの人となることを学ぶ	真の祈りを学ぶ 権威の祈りを学ぶ
キリストのために語る人となる	キリストが心の中にホームを造る 完全にキリストで満たされる

## 祈りを堅く持ち続ける

### I. 「祈り……を堅く持ち続ける」——使徒 6:4:

#### A-C: 祈りの認識(一般)

##### \* 祈ることの意味を認識する

- A. **祈ることは**、わたしたちが、自分は無であって、何もできないことを認識することを意味します。これは祈りが真に自己を否むことであることを暗示しています——マルコ 8:34. 9:29。

##### \* 祈りの人を認識する

- B. **祈りの人は**、神と神のみこころを求める人でなければなりません——マタイ 26:39. ヨハネ 4:34. 5:30. 6:38。

##### \* 真の祈り

- C. **祈りの真の意義**は、わたしたちの霊の中で神と接触し、神ご自身を吸収することです——ユダ 20 節. ヨハネ 14:13. 15:7 :

##### \* 聖霊の中で祈る

1. **祈りとは**、**人の霊と神聖な霊が接触する**ことであり、その接触の中で、わたしたちは**神を吸い込み**ます——ユダ 20 節. ヨハネ 4:24。

##### \* 両当事者の祈り

2. **真実な祈りとは**、わたしたちの**霊の中で、霊なる神とミングリングされる祈り**です——ユダ 20 節. エペソ 6:18. ローマ 8:16. I コリント 6:17 :

- a. 祈りは、**神がわたしたちの霊とミングリングされて共に祈る**ものでなければなりません。  
b. 真の祈り、すなわち、**神と人にかかわりを持つ祈りは、神の霊が人の霊とミングリングされ、人の霊が神の霊とミングリングされて持つ祈り**です——ユダ 20 節. ローマ 8:4, 26。  
c. **この祈りの中で神と人は共にミングリングされます。そして、神は開始する方、動機づける方です。神は人の中で祈り、人は神の中で祈ります**——ヤコブ 5:17。

ヤコブ 5:17 エリヤはわたしたちと同じ性情を持つ人でしたが、**雨が降らないようにと熱心に祈ったところ、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。**

3. わたしたちが**真実な祈り**、すなわち、**神によって開始され、神に触れる祈り**を持つとすれば、**聖霊の中で祈らなければなりません。聖霊の中で祈るとは、わたしたちと聖霊が、二つ霊の交わりの中で共に祈ることを意味します**——ユダ 20 節. II コリント 13:14. ピリピ 2:1。  
4. わたしたちが**祈りの中で神と接触し、神を吸い込み、神を吸収し、神で満たされる祈りが、真実な祈り**です。このような祈りだけが神にささげられるべきです——啓 5:8. 8:3-4。

ヤコブの手紙第五章十七節は言います、「エリヤはわたしたちと同じ情を持つ人であったが、雨が降らないように**熱心に祈ると**三年六か月の間、地に雨が降らなかった」。「熱心に祈った」はギリシヤ語では**祈りをもって祈った**、あるいは祈りの中で祈ったを意味します。これは聖書の中でも極めて特別な表現です。どうか覚えておいてください。これはわたしたちが言う**両当事者(二重の人物)の祈り**です。エリヤが祈っていた時、彼は祈りと共に、あるいは祈りの中で祈っていました。言い換えると、彼は彼の内側のその霊の祈りと共に祈ったのです。ですからわたしたちはエリヤの祈りとはエリヤの中で、神がご自身に向かって祈っていたとすることができのです。アンドリュー・マーレー兄弟はかつて言いました。真の祈りとは**わたしたちに内住しておられるキリストが御座に座しておられるキリストに向かって祈られることである**。キリストがキリストご自身に祈られるということは奇妙に聞こえます。しかしわたしたちの経験の中ではこれは真にそのとおりです。

#### D-E; 権威の祈り(最高)

##### \* 最高の祈りは権威の祈りです——**マタイ 18:18 の権威の祈りを学ぶ**

- D. 聖書には**最も高くて霊的な祈り**があります。それは**権威の祈り**です——マタイ 18:18-19. マルコ 11:23-24. エペソ 1:20-22. 2:6. 6:12-13, 18-19 :

マタイ 18:18 まことに、**わたしはあなたがたに言う。あなたがたが地上で縛るものはすべて、すでに天で縛られていたものであり、あなたがたが地上で解くものはすべて、すでに天で解かれていたものである。**

1. わたしたちが祈りの人になりたいなら、**権威をもって祈ることを学ばなければなりません**。このような祈りは、**マタイ第 18 章 18 節**で主によって描写されています。

##### \* 縛り、解く祈りを学ぶ

2. **マタイ第 18 章 18 節**には、**縛る祈りと呼ばれる祈りと、解く祈りと呼ばれる祈り**があります。**縛ることと解くこと、これが権威をもって祈ること**です。

## 権威の祈りとはマルコ 11:23-24 の祈りです

- ・信仰とは、わたしたちが求めたものをすでに受けたと信じることです
- ・「この山」に向かって語ることを学ぶ

E. 権威をもって祈ることは、マルコ第 11 章 23 節から 24 節の祈りをするということです：

1. **信仰とは、わたしたちが求めたものをすでに受けたと信じることです**——24 節：

- a. 主の言葉によれば、わたしたちはすでに受けたと信じるべきであって、受けるであろうと信じるではありません。
- b. 望むとは、将来のことを期待することを意味します。信じるとは、あることがすでになされたと考えることを意味します。
- c. 信仰とは、神がある事を行なうことができる、また行なうであろうと信じるだけでなく、神がその事をすでに行なったと信じることです。

2. **マルコ第 11 章 20 節から 24 節の祈りは、権威の祈りです**——23 節：

- a. 権威の祈りは、神に何かを行なっていただくように求めることではありません。むしろ、神の権威を行使し、この権威を適用して、問題や取り除かれるべき事柄を対処することです——ゼカリヤ 4:7. マタイ 21:21。
- b. 神がわたしたちに与えた委託は、彼がすでに命じたことを命じ、彼がすでに命令を与えたことに命令を与えることです——17:20。
- c. 召会がそのような権威の祈りを持つことができるのは、完全な信仰を持ち、疑わないで、わたしたちが行なうことが完全に神のみこころにしたがっているのが明確であることによります——6:10. 18:19-20。

d. **権威の祈りは、勝利者と大いに関係があります。すべての勝利者は、「この山」に向かって語ることを学ばなければなりません**——マルコ 11:23。

## 権威の祈り、すなわち縛り、解く祈りを学ぶ

からだはかしらの権威を共有するのですから、主は彼の弟子たちに、彼らが地上で縛るものはすべて、天で縛られていたものであり、彼らが地上で解くものはすべて、天で解かれていたものであると告げられました(マタイ十六・十九、十八・十八)。わたしたちがからだの権威と共に祈るとき、わたしたちが地上で解くものは何であれ、天ですでに解かれていたものであり、わたしたちが地上で縛るものは何であれ、天ですでに縛られていたものです。からだは天におけるかしらと一つであるので、天ですでに解かれ、または縛られていたものを、解き、または縛る権威を持っています。(祈りの学課)

すべての勝利者は、山に向かっていかに語りかけるかを学ばなければなりません

わたしたちには多くの弱点があります。例えば、かんしゃく、邪悪な思い、体の病などです。もしこのことを神に言ったとしても、すぐには効果がないかのようです。しかし、もしあなたが神の権威を用いて、山に向かって語るとしたら、それはすぐに逃げ去ってしまいます。この節の「山」という言葉は、どういう意味でしょうか？ それは、あなたの目の前にある困難です。山とは、あなたの道を阻むもの、あなたが前進するのを妨げるものです。もしあなたが山を見るなら、あなたはこの山に対してどうしますか？多くの人は、自分の生活や働きの中に山がある時、神に祈り、神がその山を除き去ってくださるように求めます。しかし、神はあなたに対して、「あなた自身が行って山に語りなさい。あなたが行って山に命令して、『取り去られて海に投げ込まれよ』と言いなさい。それで十分です」と言われます。山を動かすことを神に求めるのと、直接山に動けと命令するのでは、大きな違いがあります。神の御前に行って、神の働きを求めるのは一つの事です。自分が行って直接山に動けと命令するのは、また一つの事です。この一種の命令する祈りは、常にわたしたちがなおざりにしているものです。神の権威を用いて、直接、問題に語りかけるのです、「主の名の中で命じる。わたしを離れ去れ」、「わたしはおまえがわたしの上にとどまっているのを許さない」。この種の祈りは非常に少ないのです。権威の祈りは、あなたを阻んでいるものに対して、「わたしを離れよ」と言うものです。あなたは、あなたのかんしゃくに対して、「わたしを離れよ」と言わなければなりません。あなたは、あなたの病気に対して、「わたしを離れよ、わたしは主の復活の命によって起き上がる」と言わなければなりません。神に対してではなく、直接山に向かって、「取り去られて海に投げ込まれよ」と言うのです。これが権威の祈りです。

(二一全集 22 巻 権威と祈りからの抜粋)

## 言の務めを堅く持ち続ける

### II. 「言の務めを堅く持ち続ける」——使徒 6:4:

#### \* 言葉の務めの前にまず祈りがあるべきです

A. 使徒たちが実行したように、言葉の務めの前にまず祈りがあるべきです——4 節。

#### \* 言葉の務めの例証は、エペソ第 3 章 17 節前半です

B. 言葉の務めの例証は、エペソ第 3 章 17 節前半です。「キリストが……あなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように」:

### キリストがホームを造ることはわたしたちをキリストで満たし、キリストのために語る人として

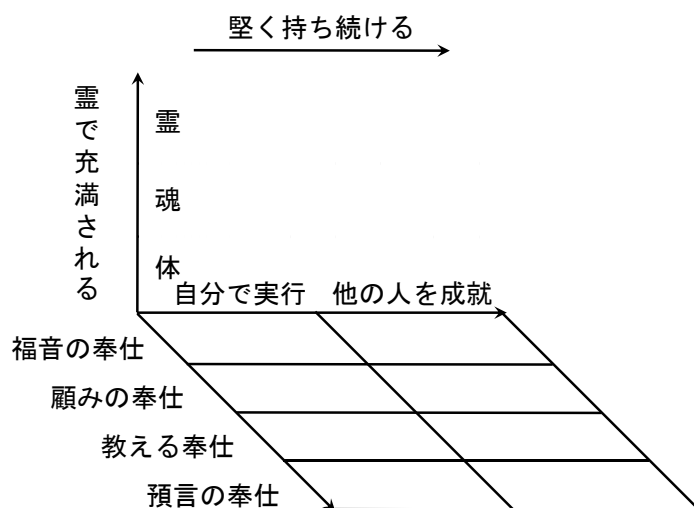
1. キリストはわたしたちの心の中へと広るとき、わたしたちのパーソンとなります——17 節前半:

- わたしたちはキリストを、霊の中で命とするだけでなく、心の中でパーソンとする必要があります。
- キリストがわたしたちのパーソンとなる唯一の道は、キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造ることです。
- わたしたちがキリストをわたしたちの心の中でパーソンとするなら、わたしたちの心の中に生きているパーソンは自己ではなく、キリストです——ガラテヤ 2:20。

2. わたしたちの心の中にご自身のホームを造りつつあるキリストは、無限の、計り知れないキリストです——エペソ 3:18:

*エペソ 3:18 力に満たされて、すべての聖徒たちと共に、その広さ、長さ、高さ、深さが何であるかを会得し、*

- キリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造るとき、わたしたちはすべての聖徒たちと共に、その広さ、長さ、高さ、深さを会得します。これは宇宙の次元、計り知れないキリストの次元です。
- キリストは計り知れないのですが、わたしたちの心の中にご自身のホームを造りつつあります。
- キリストは宇宙的な立方体であり、からだの中での彼に対するわたしたちの経験は、「立方体のように」、三次元にならなければなりません。



参考まで  
左図は  
以前アンドリュ・ユー巨大  
が示した 3 次元の召会生  
活+継続で 4 次元の召会  
生活の概要

3. キリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造るとき、わたしたちは満たされて、神の全豊満へと至ります——19 節:

*エペソ 3:19 そして、知識を超越したキリストの愛を知ることができるように。また、あなたがたが満たされて、神の全豊満へと至るように。*

- a. 神の豊満は、極みに至る三一の神の表現であるキリストのからだ、三一の神の団体的な表現の究極的な完成です。
  - b. キリストのからだは、無限のキリストの無限の表現です。
  - c. キリストに、わたしたちの心の中にご自身のホームを造っていただくなら、わたしたちは三一の神で満たされて、彼の満ち満ちた表現となるに至ります。
4. 真の召会生活は、無限の計り知れないキリストが個人的に、わたしたちの心の中にご自身のホームを造った結果です——17節前半、4:16:
- a. 召会の内容は、わたしたちがパースンとするキリスト、わたしたちの存在の中へと造り込まれているキリストです。
  - b. キリストのからだの実際を持つとうとするなら、キリストに、わたしたちの心の中にご自身のホームを造っていただくかなければなりません。
  - c. 召会の建造に関するマタイ第16章18節のキリストの言葉が成就されるために、召会はある状態の中へと入らなければなりません。それは、聖徒たちがキリストに、彼らの心の中にご自身のホームを造っていただき、彼らの内なる全存在を所有し、占有し、浸透していただく状態です。
  - d. キリストがわたしたちの内なる存在を占有すればするほど、ますますわたしたちは、からだの中で他の人と共に建造されることができるようになります——エペソ 2:21-22、4:16。

召会生活は使徒パウロを模範とする人たちによって構成される	
わたしたちの霊の中で啓示を受ける	エペソ 3:5 その奥義は、今や彼の聖なる使徒たちと預言者たちに、 <u>霊の中で啓示されていますが、別の世代では、そのように人の子たちに知らされていませんでした。</u>
わたしたちの内なる人の中へと増強される	3:16 どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、 <u>あなたがたを内なる人の中へと増強してくださいますように。</u>
キリストがわたしたちの心の中にホームを造る	3:17 またキリストが、 <u>信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることが出来ますように。</u> またあなたがたが、愛の中に根ざし土台づけられ、
わたしたちがキリストで完全に満たされる	3:19 そして、知識を超越したキリストの愛を知ることが出来るように。また、 <u>あなたがたが満たされて、神の全豊満へと至るように。</u>
わたしたちはみな、使徒、すなわち遣わされた者であり また預言者、すなわちキリストのために語る者です	